

八
597
6



弘法大師の御遺言第六

目録

- 宇治河うぢがわのの事
- 水みづ神かみ福ふくのの事
- 信のぶ仲なかつ成なりのの事
- 君きみ山やま寺てらのの事
- 妙たね持もち具ぐのの事
- 美み如にょ親しん王わうのの事

六十

大前山作
御親法乃事

二人の名弟子此事

釋迦出現乃事

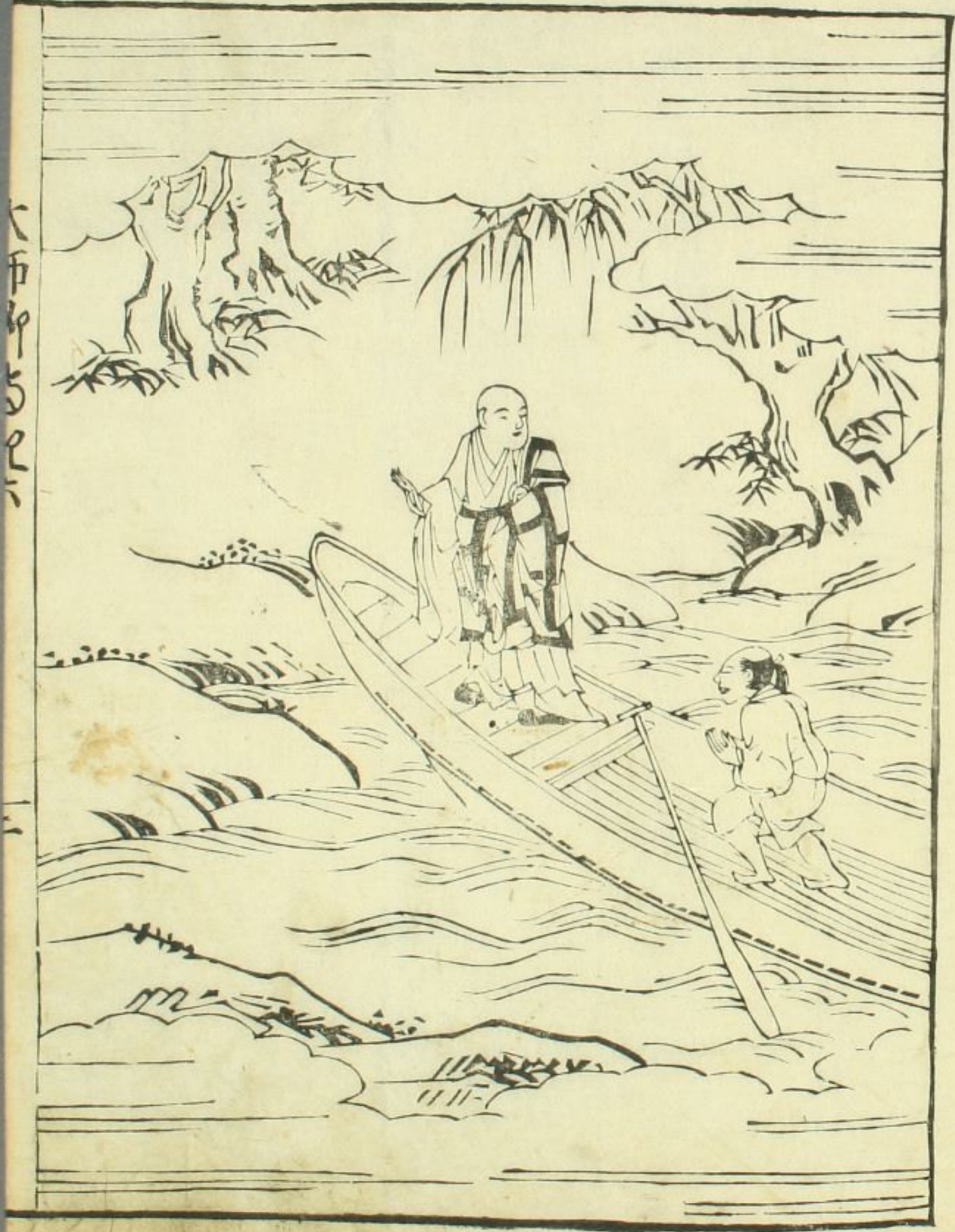
親乃御山の事

普通なる歌の事

古佐園橋本此橋乃事

新法大御法傳紀美乃事

梅らりまのふしあも東あへは波のまへへ
宇治川よつを流ひくは舟は流るれは
うしにいつくはうはうしにうしに舟らん
ひまれのまへはあさうふ舟あへはひてえ
うしにうしに舟らんは舟らんわさうは
のりては舟あへてえあへてえあへてえ
うしにうしに舟らんは舟らんわさうは
うしにうしに舟らんは舟らんわさうは
書付てえあへてえあへてえあへてえ
とえあへてえあへてえあへてえあへてえ



つたてのり

何事もあらじいひゆさしなるてくるりて今
 あことくは徳きよみ徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん
 徳しんたらち徳しんつたよるりちん徳しん

大徳の徳

それよもあつもの湖のやうりへまを
 かん海んくさるるうらんはうんはうん
 たう鳴うぞくあうくゆらんしけるまよ
 水らよまうらうくしうらう一人らあうら
 おりのあるとれいしうんはうんはうん
 に福とりとめさるるあまうんはうん
 あられゆさあうらうはうんはうん
 路ひてくれとまうんはうんはうん
 うてあうんはうんはうん



六十五
 六十六

寺とをいひ給ふとてしを給ふよある山あり
 ゆさくれき勢給ひ一うた一人の僧様を
 うし給てありたらよと一巻のやとりと一給
 乞ふもとてうたつと給ふの僧しけるはげて
 里んふまてふ山甲あれおがごとりしむ
 してとえん。佛おまよりしむをわげんとて
 ぶよ力あ。縁うてい和あるは力ともの
 ゆとえん。佛あんと給たれはあ海すあつら
 磨りらるとと数石よびうて志づるを海か
 持ましくたれたらあ地あづるとい給く
 あづるも。瀑市の志とてふとて。

そゆふまあてそのりかりのほひ乃とも
 一びぶる後のほひうりあけまふとちる
 志うたたましく利益よあけるあまてはゆとく
 地ありそゆと給ふりああまぞ茶うるとや
 希代の上まふとてい給ひあの人を給へり



さて奥列おくりりつてつまあふよ志のぶ乃こ初り
 りふ交まじり。又山やまのつりふ山もありがかん維じん人
 ぞしああむすすああ〜つらもあり〜げげ山やまは
 ぐ初はつんおおりささゆゆつつひひよよかか乃乃ももままががややわわゆゆを
 ささま〜たたれれいいつつももるるたた〜ささ約やくああももととままあ
 すすららもも難なんくくたたつつつつみみ年ねんとと終しゆうええれればばああま
 ららててららりりああささゆゆたたららととふふののととてていいわわくくま
 ののねねすすらら〜ああののここうう〜ささああささいいののををかかよよこ
 ぬぬ魔ま界かい〜ててそそわわりり々々らら志しりりとといい〜も
 之之海うみ乃乃寺てらりりののわわりり〜ままううへへああ乃乃たた〜百
 一一やや〜らら〜びびががふふととぞぞ悪あく魔まととらら〜しし

大和やぶら



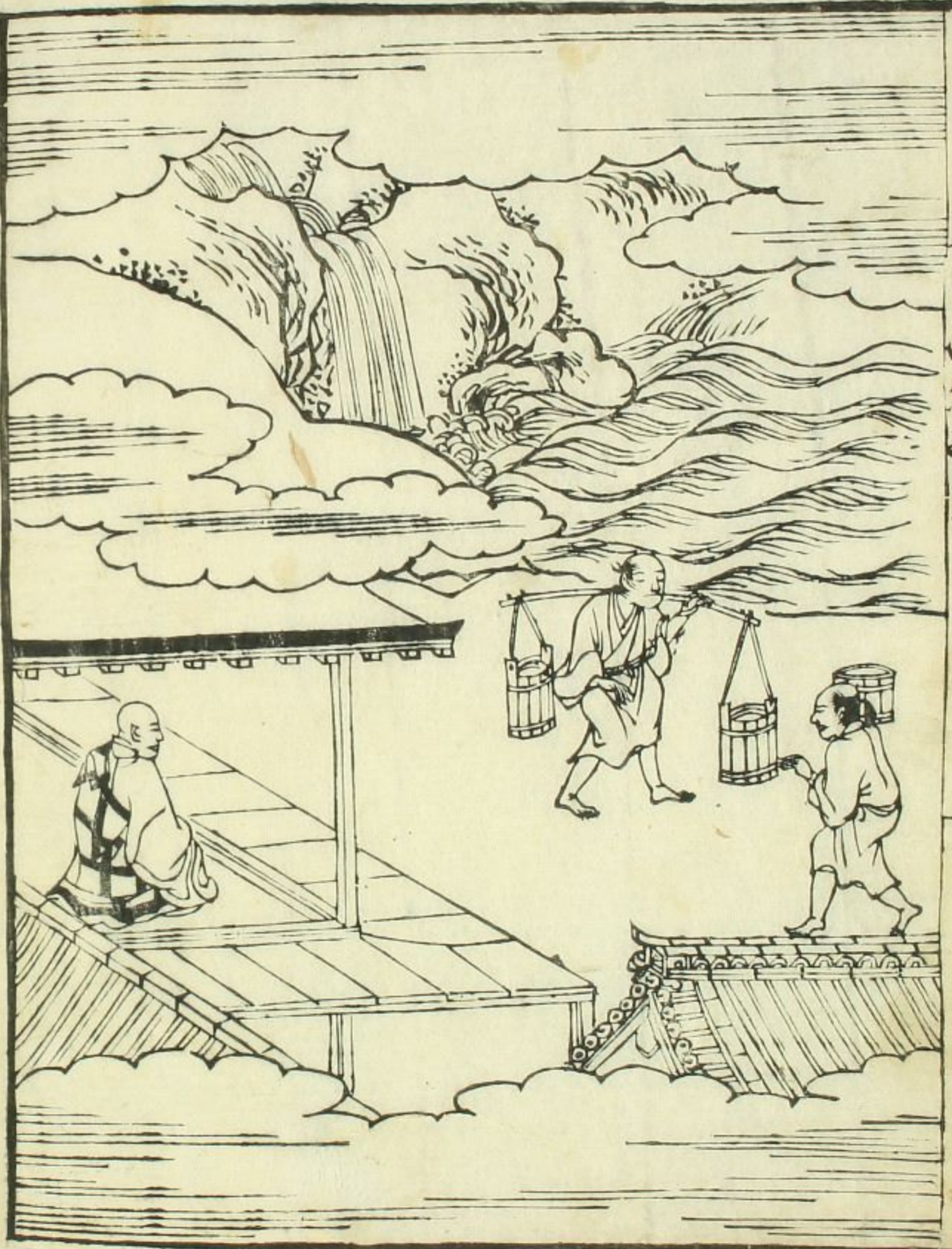
きびてんやけさる乃大魔縁けりりのあく
 うもて悪半^{あくはん}災難^{さいなん}とあはれしうんくもまこ
 ーと。おあよあげさやクれがすふりらえ海
 はちり入給ひてまづらうくろ悪魔^{あくま}とう
 ーろのよよかりこ先^{まへ}辨^わ一^{いつ}縁^{えん}なぐむんたげは力^{ちから}港^{みなと}
 せられてこは事のえびのころおんが海よしはあ
 ーてたひかるとも乃こあまはあ^{あま}のあ^あを^を後^{あと}後^{あと}
 のはそれる^{それる}あ^あ可^か辨^わのう^うび^びの^のあ^あの^のあ^あ

大佛の御説

五

何れはばちと再興ありてまのりんとて先奉るる
平親者ありて一は海にせいとゆく
一は物一とまのり奥結ありてありて生は
くくく一とれはち中一たらまはらん一やじ
島氏おぐく巨益とえのよく悪魔ハ詭紙
えり。國中一れまのりまてとありける。今ふ
ねわくく女人のてふ河のりあて悪魔とてとあ
とととやとて同一必舎付とまのり地城とく
れり。奥地ありて地ハ陸奥の地越はるまの
地ともて一田路ありのぞり精舎とたつるふ
西とえち氏と地とあふたらありてとてはり

何れ。日ありて一て大がらんとあんのり
何て。日ありて一て大がらんとあんのり
色ありて一て大がらんとあんのり
十二神將四面の回席ありて一色ぐそくと
又八角の堂舎とて木像を劉界乃曼荼
羅九会れ結るとあま。位位三百余人とあり
密教とゆり。先ありてははねの紐脚地一
と云信中來信よ。地をける。東てを海の
よつあり。地をはとて。地を子の才一よとあり
地を海にまて地一。附屬志ありてあり
地を海にまて地一。附屬志ありてあり



龍海と海ありしころと雲ありしころの世親王
 此交法乃るよる海乃坊よまよであひけるん
 相もし此堂よ此法ありしころ親王志を
 りく御堂乃るよたもそたりしころの世親王
 空海乃檀場とのそさ見あへる檀場の依託
 懐徳として此の精爽より親王たさよおど
 りし此礼ね恭敬してしつとまうておほしめ
 此法おりりしころは此交法ありしころあぐ
 とありし親王海達磨と志れあしよの世親王
 一寺もげ親王よりしつとされし寺ありし
 寺あり

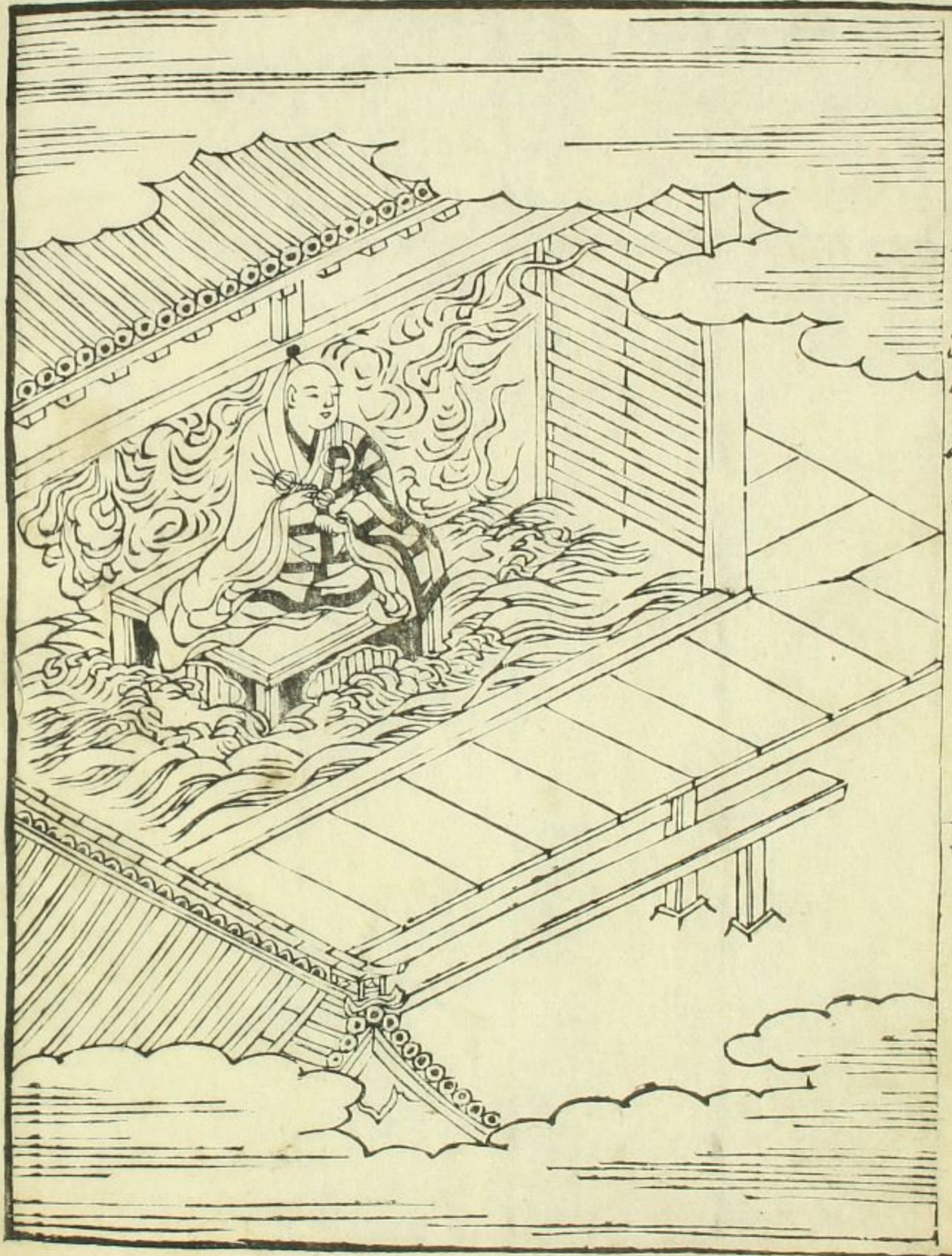
大正十一年

大正十一年四月六日



とどくを海西のる一念の親解とて
一庭乃と味と彼一終ひきりて
あつれけらわらひいあ梅親よ入終へ
あしぐく色見どりのさつと毎んドて
あんくきまわ。又賢字親とあし
ハ業とあしぐく色火夷りえあ
まのくより六太吾身此日性
具徳本る乃理家終とて
わけとああ一

大正十一年四月六日



九十九の御説

此弟子あましくまじりける中ふ二人とて
 けりあり。操り智徳世のあつらふ人乃とら
 らざる事也。二人の智を難とて。美入ふとて
 ころ。空海はさまじくは我秘流へは之秘
 の意あり。海名尋ね下。一人の初金剛頂
 乃樹下石とよなりて。生蓮と送りあはばあひ
 風うきえ。定心石床とて。色とて。あ。も。果。成
 くの歎あれて。徳深。個。名。あ。ぐ。ま。け。り。也。志。平。定
 事。乃。二。徳。け。あ。り。子。現。が。一。と。極。を。海。は。生。お。あ
 まは。漢。波。あ。り。下。白。ま。し。け。る。海。風。の。浦。と。ま。は
 空方山乃とら。屏風とて。そ。を。か。く。に。け。え

八十五の御説

十一

一さふたのゆふよりのあつげしとやる海
 生國乃しあれはるるべき御座と建ちてお
 民どもはとべるとにがしあ。あふくをば
 心うめいあひまひて境とゆゆんけ
 あり。あつ秋。御座のうんうりあにたか
 とにりしゆりあつやううりあにたか
 はあつ乃うらよ秋ああはらとあつり。
 御座あしくうりあんらよめつあつ
 色あつすあつらあつあつあつあつあつ
 とあつあひてあつあつあつあつあつあつ
 さまあつあつあつあつあつあつあつあつ



それよりか乃山と我お師山と名付又ハ浦
 嶽とも号し一絶ひ一也又それかよりよんれも
 ねとぬ大山なるんげ山よあもらせ給て神
 流はましくけらぬらまの比をとりみ柄
 志利細あまなごつ里金剛藏主あつらねお
 所勢あひて望海と志りくをわたりしむを
 一まゝてびあよこを徳盛とつくらんて一仏
 法らんやうの具地ありとあひそまに秘し
 藏主しげあよ法とたまんとのゆらうひまをげ
 とがこくみう勢給へと



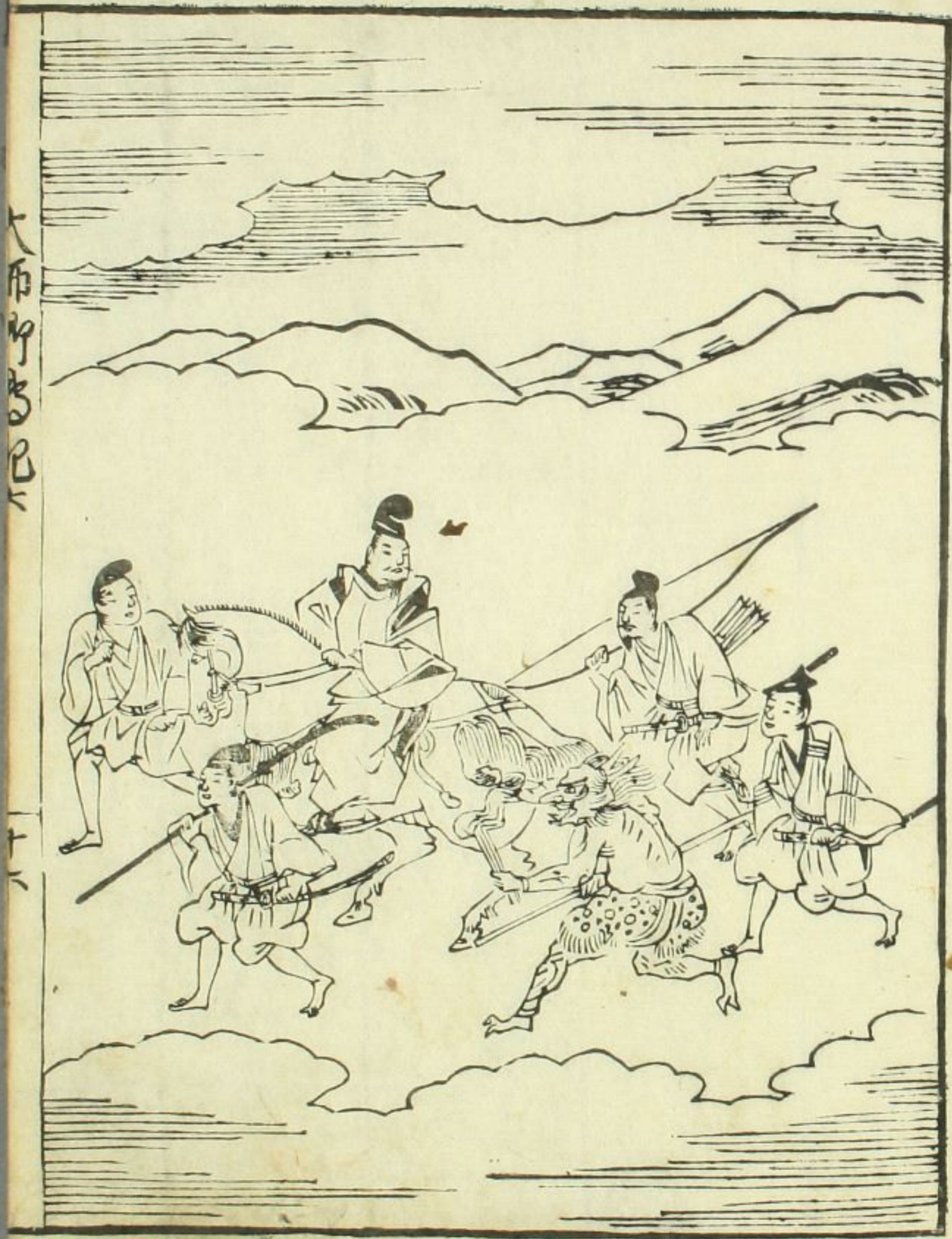
空海にうらとびあめあつとも。ばあまらけりあり
 の細と藪元より。すあつら申奥の巖とて。下
 藤まね松庵と。家も。自平年報も。れ其像と。ゆり。
 中より。安主一。終。精舎と。建立。一。道。基と。あ
 らぬ。松坊。新と。あつら。柳。け。松。紋と。や。と。い。ふ。事。の
 巖。そ。と。た。ら。申。夫。の。毛。勝。と。め。り。り。回。ら。ま。し。ま。れ
 て。八。ヶ。園。乃。松。ま。あ。この。あ。よ。あ。さ。や。也。さ。あ。あ。あ
 たり。て。け。も。と。八。あ。さ。と。号。一。山。号。と。い。ぬ。ゆ。り。あ
 づ。け。ら。れ。ま。ら。い。ら。せ。り。ぬ。ら。い。と。ま。れ。せ。ら。り。一。い
 ま。ら。は。は。さ。乃。松。起。よ。あ。つ。り。れ。け。り。と。也。



大徳寺の御願

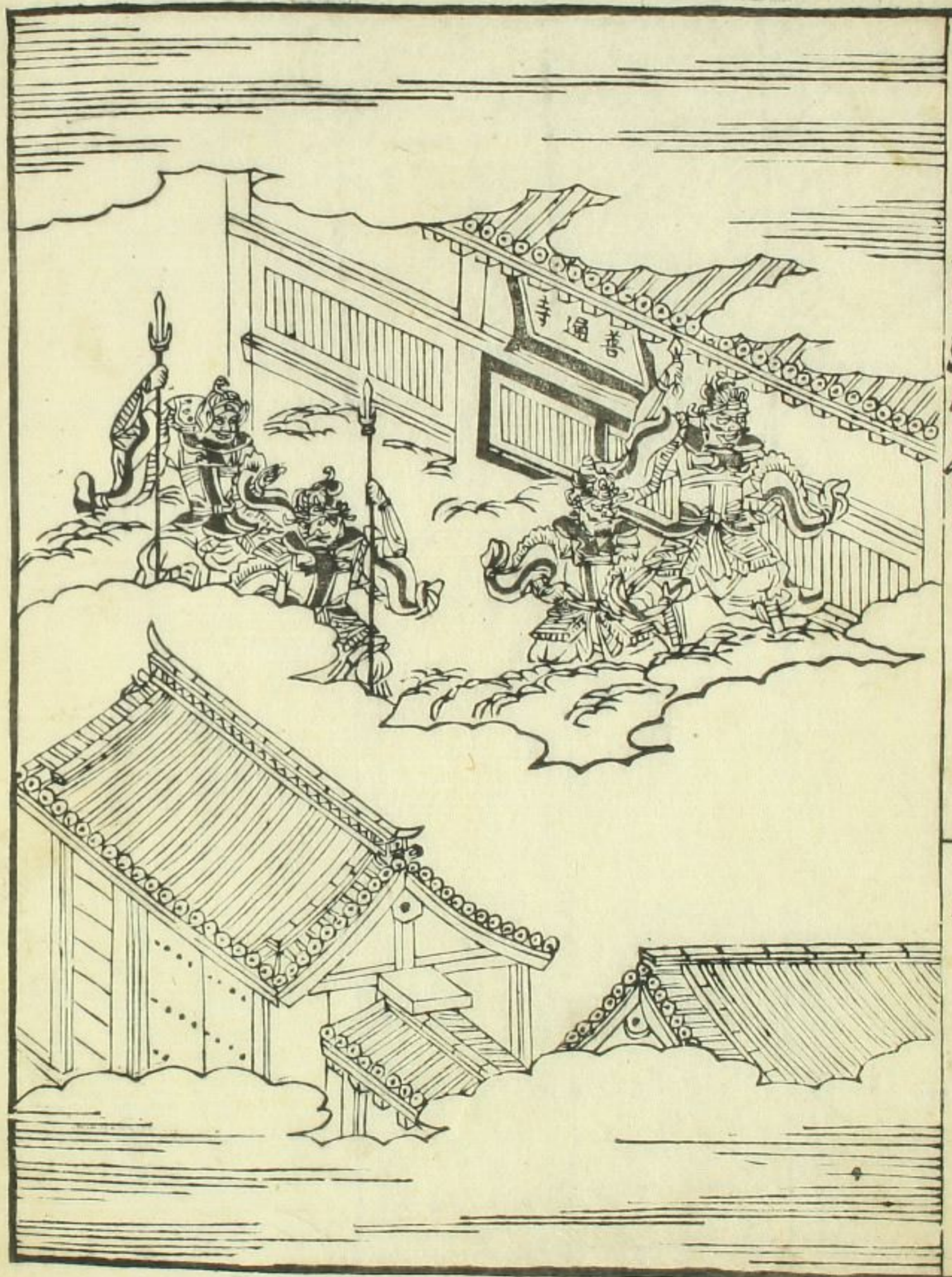
杉野一さぶ乃用よ又増較うさ地ありけき
 うわも大からんと涉らんう海しく計
 善海も夏茶羅院と名付給ふげさゆも
 くの信地と信侶勢一先茶敷とさうん
 りを給ふげさ乃類はる海涉り電うり
 され一とるや多よも一さなることあり
 或向陰陽の仰。何々の信地。まの縁あり
 漢別よ下仰。其るあれ一とて彼鬼神とあり
 きて。げな柱どりのこそ馬のさけんす
 けるんかの善海ものあをくたるとれが
 彼鬼神とてありける信地あり一とんあり

動致一まればげさ乃類はる海は自
 ゆ今や回天まも後志あがゆんよ。彼鬼神
 れとありてなとく一海り一と思惟一。善
 海もとて信地ゆんゆんすまされおんの
 信もと彼鬼神とてありてありてありて
 一とて信地ゆんゆんゆんゆんゆんゆん
 一とて信地ゆんゆんゆんゆんゆんゆん
 九たなりと



大正十一年

八

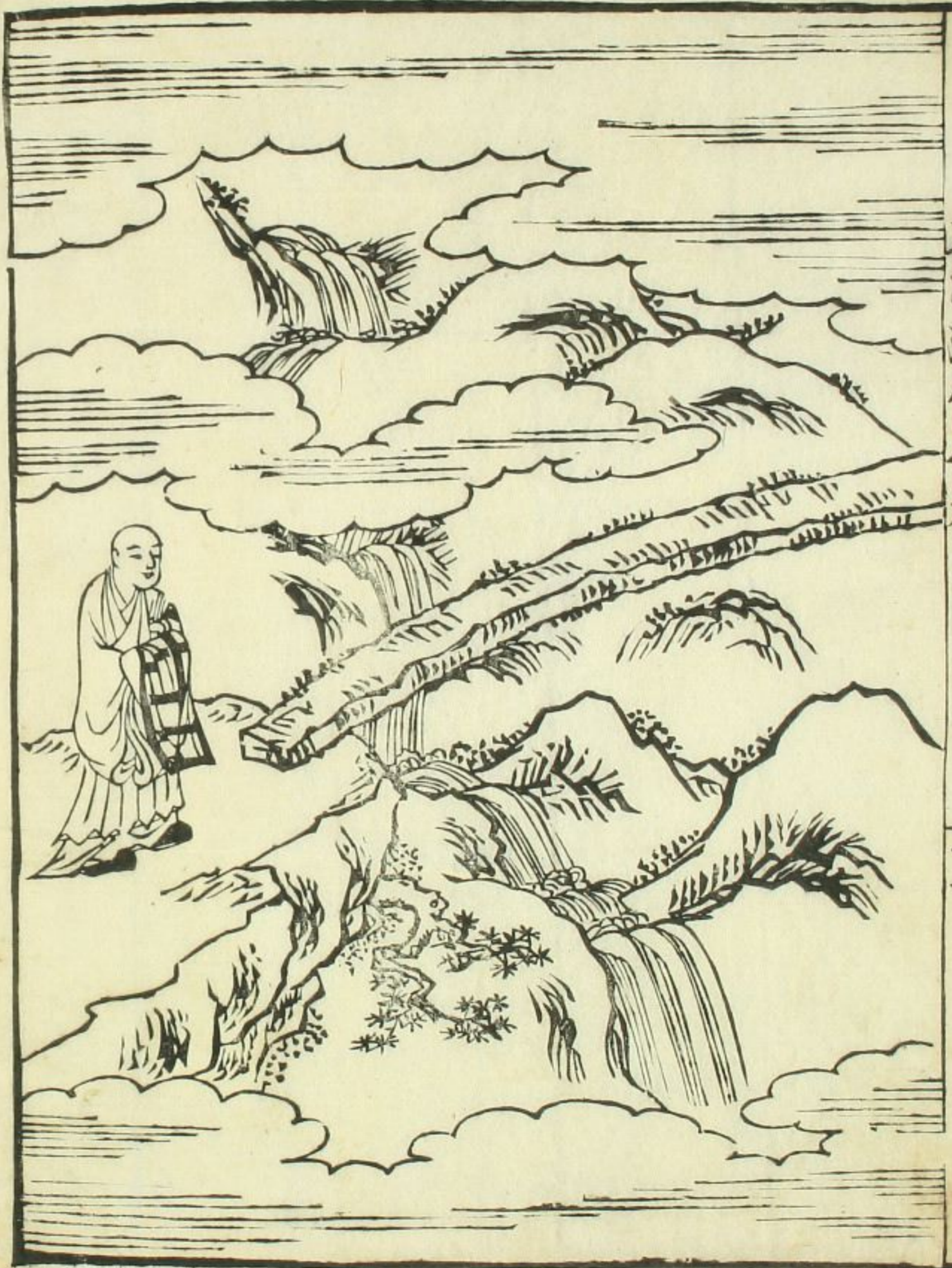


大正十一年

九

又ある付ち作の糸ととり結ぶ山甲またさ
なら音あり。千尋乃底は思ふにけるにけり
ふりてく。よらよらまきゆるむらりたれり。
一川のけりり。年年一さ橋あれは昔也
しづくちかり海と出ておのりあとも見
えり。いづとくを杉そんでたれたやとく
くけくゆぐらもあねた。ま集の物人つとあや
まそいし。いづらりのありて。いづつより敷
とつめやし。海まよまりのきる。それハ柳のあき
ともあき。いづくや。や。海とねと。いづらん。一海
くして。いづ集のまやとありと。故橋よじりてく

は持てましくて。めんら伊つまもくも。杉換
とほま。あつれとのいひて。げらせ給なり。
さうそ。あやう。いづ。おつら。のくら集のか
け。いづ。ら。れ。いづ。よ。た。ら。いづ。ば。性。を。乃
集。おん。じん。は。後。あ。の。と。ぬ。い。づ。ら。の。い。づ。ら。い。
とく。あ。あ。い。づ。い。づ。は。あ。と。い。づ。ら。の。い。づ。ら。い。
あ。また。よ。ら。い。づ。ら。の。利。と。い。づ。ら。の。い。づ。ら。い。
とく。あ。い。づ。て。名。集。れ。橋。乃。申。た。ゆ。ら。と。い。づ。ら。い。
あ。う。り。た。れ。



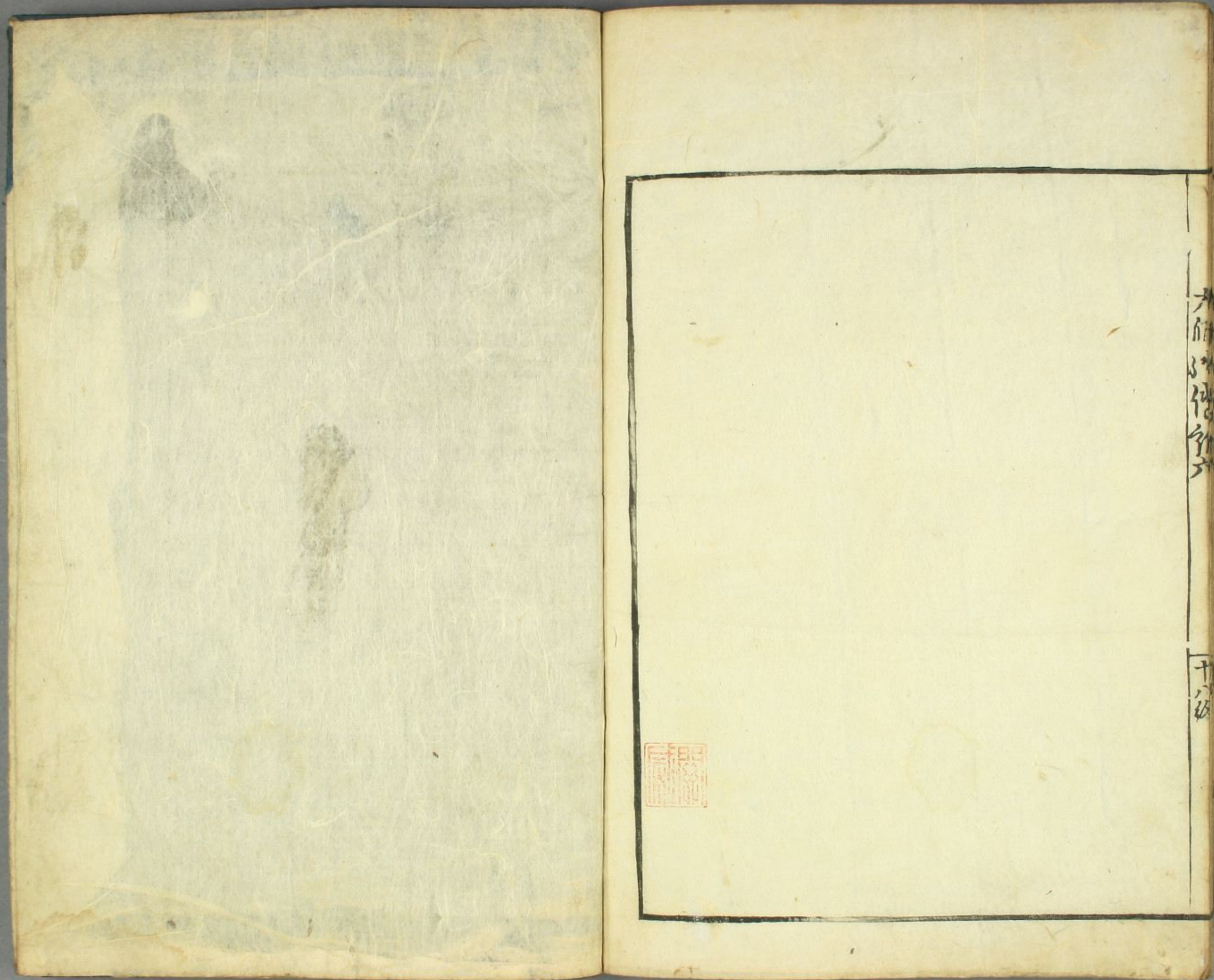
大徳の徳を

十七

ことばあぐく 橋を 渡して ありが こと 沙の 持
 ありが ありが きらり ありが ありが ありが ありが
 いらんや ありが ありが ありが ありが ありが ありが
 とんりく ありが ありが ありが ありが ありが ありが
 本と ありが ありが ありが ありが ありが ありが
 神仏の ありが ありが ありが ありが ありが ありが
 ありが

大徳の徳を

十七



卷之六

十八



